

どう選べばいいの？ テストツール

目的と予算に見合ったツール選び方ガイド

ライトスピード株式会社
プロダクトセールスマネージャ
瀧本 崇

テストツールの種類

- テストマネジメントツール

→ テストケース、不具合等の管理

- 静的解析ツール

→ コーディングルールのチェックやソースコードから欠陥を発見

- 自動テストツール(キャプチャ&リプレイ)

→ マウスやキーボードの操作を記録, 再生して期待結果と自動比較

- 性能・負荷テストツール

→ 大量の負荷をシステムへ与え, 応答時間測定やシステム・リソースを監視

テストツールの種類

● 商用ツール(高価)

- 多種・多様な機能によりレアケースにも対応
- 製品サポートがある
- 高額な導入コスト

● 商用ツール(安価)

- 基本的に必要な機能
- 製品サポートがある
- 安価な導入コスト

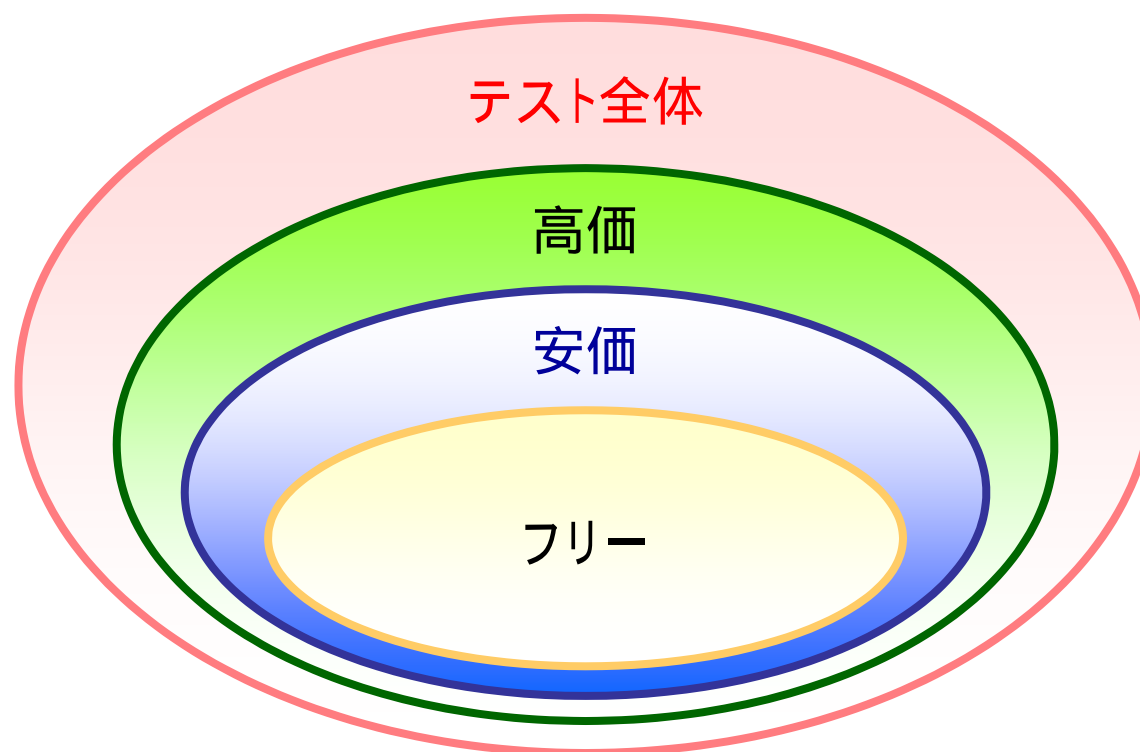
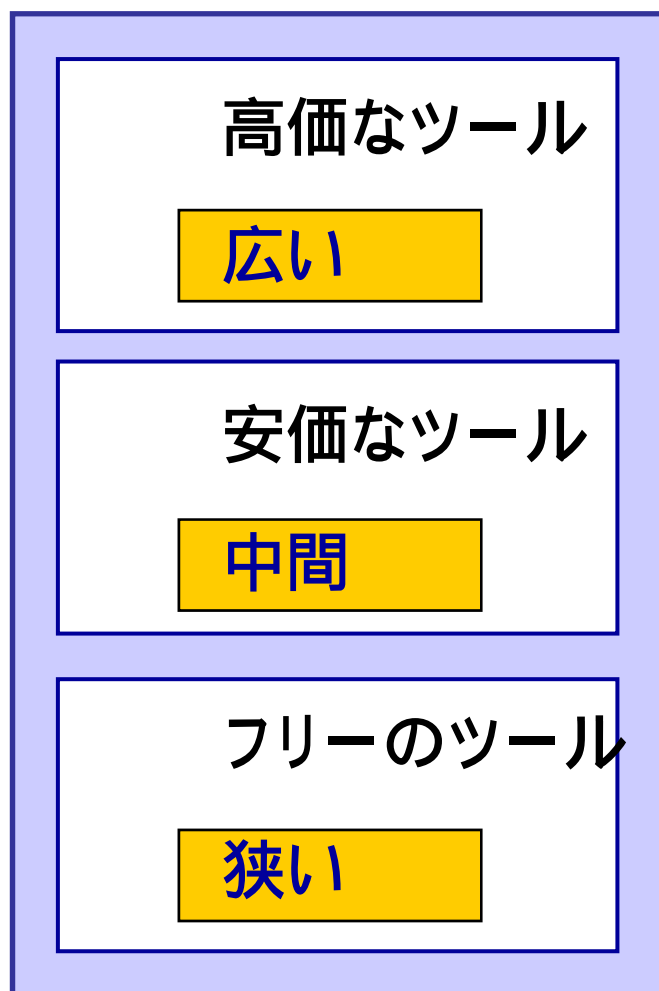
● オープンソース・ツール(無料)

- 部分的な限られた機能
- 製品サポートが無い
- 無料で使える



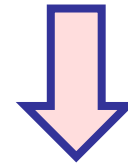
テストツールが自動化できるテストの範囲

● ツール毎の自動化範囲

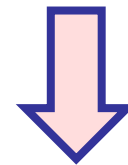


自動化 = 効率化？

ツールを使って自動化できるテストのすべてが
自動化に適している(効果がある)わけではない



自動化に適している(効果がある)テストだけ
自動化ができればOK



必ずしも高価なツールが良いわけではない

高価な商用テストツールの課題

「テストツールは高い・操作が難しい」

高い導入コスト！

- 1ライセンス100万円以上、本格導入すると数千万円規模

ツール習得が難しい！

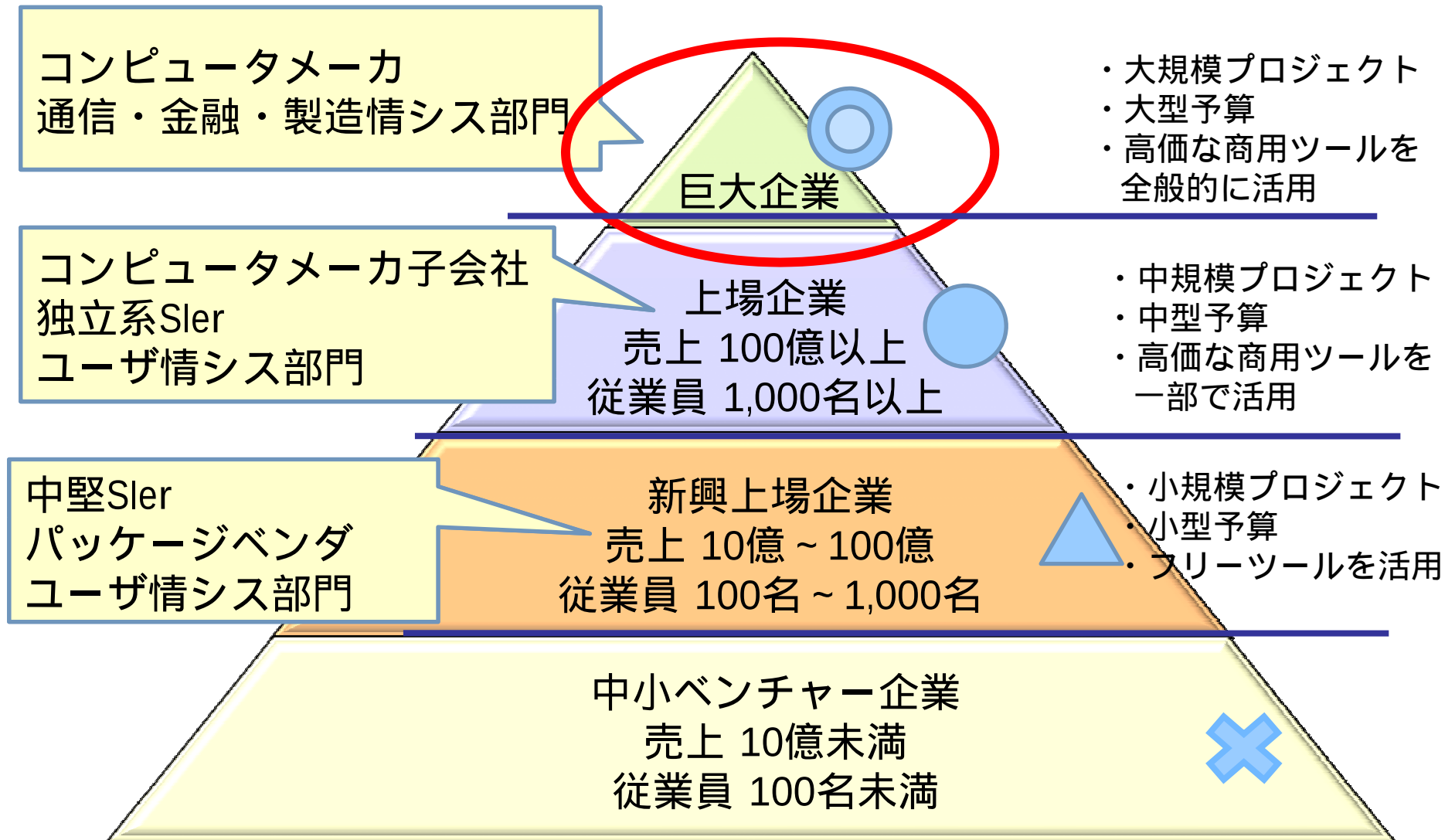
- 実際には一部の限られた機能しか使わない
- 無駄な機能が多くオーバースペック
- マニュアルは膨大なページ数で習得するのが大変

導入コストに見合う効果が得られるか不安！

- ツール導入による効果があることは理解しているものの、初期の導入コストが回収できるか不明確
- 初期コストが大きいいため、ツールに対する期待も大きい



テストツールの普及状況



米国VERISIUM社のテストツール

「テストツールは高い・操作が難しい」という認識を変え、
「テストツールは安い・操作が簡単」をコンセプトに

破壊的イノベーション(価格破壊)

→高価な商用ツールと比較し、1/3～1/5の製品価格！

機能の絞り込み(無駄の排除)

- テスト対象は「Webアプリ」に限定！
- 効果を出せる必要十分な機能をカバー！
 - エビデンス保存に最適なスクリーンキャプチャ機能
 - データベース内のデータチェック

簡単に使えるインターフェース(単純化)

- 直感的で使いやすい画面インターフェース！
- チュートリアルを活用で1・2週間で習得可能

VERISIUMの製品構成

● vTest (機能テスト/回帰テスト)

→ vTest は、Web アプリケーションの機能 / 回帰テストを自動化するブラックボックス型のテストツールです。直感的なブラウザ操作を行い、テストしたい操作をvTest に記憶させることで、何度でも自動的に繰り返しテストを行うことができます。テスト自動化により、リリース前だけでなく、単体テストから結合テスト、システムテスト、運用 / 保守フェーズまでご活用いただけます。

<http://www.vtest.jp/products/vtest/>



● vPerformer (サーバ負荷テスト)

→ vPerformer は任意のランザクションのレスポンスタイムや、各種サーバリソースの情報を簡単に取得することのでき、サーバやアプリケーションの耐久性や性能を測定できる負荷テストツールです。ユーザが実際に行うGUI 上でのキー操作やマウス操作を記録し、その内容をテストスクリプトとして自動生成します。

<http://www.vtest.jp/products/vperformer/>

